

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

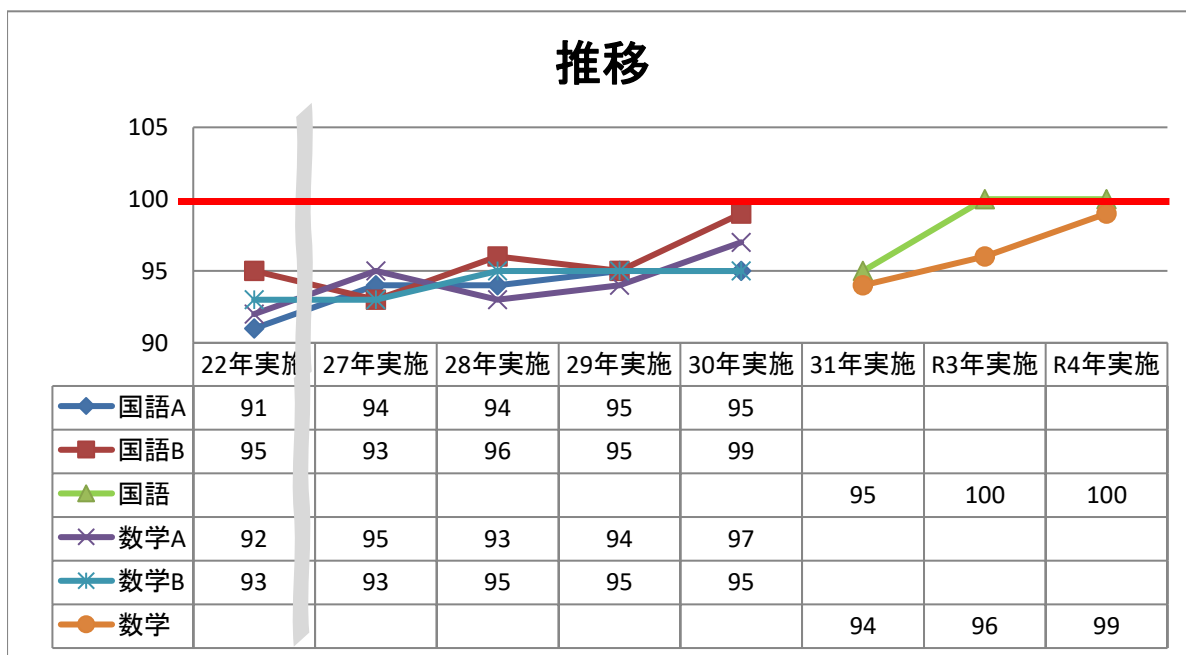
【短期指標】
 全国学力・学習状況調査における文科省標準化得点を国語100以上、数学99以上

3.指標に向けての取組

- 生徒が主体的に取り組む一単位時間の共通の学習過程の確立
- 各教科における「かく活動」を位置付けた「思考活動」の充実及び「学習規律のスタンダード」に基づいた授業規律の確立と徹底
- 集中して学習に取り組む習慣を定着させるためのモジュール学習の展開
- 学級で目標を決め、取り組み、達成感を味わう学習コンクール(数学は「未来への一歩」を活用)
- 全生徒対象の定期考査前習熟度別補充学習

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	100	99
嘉麻市	97	96
全国	100	100



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

文章の内容を捉え考察したことを説明する問題の正答率が低く、無回答率が高い。具体的には【国語】

場面の展開を取り上げることができていないことに加え、考えたことをうまく文章に表記できていない生徒が多く見受けられた。授業での書く活動や振り返りの活動の中で、ただ書かせるだけでなく、授業の場面や条件を指定するなど目的を持って書かせる場面が必要であると考え。

【数学】

筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる設問では、誤答率、無回答率ともに最も高くなっており、証明することやその意味を理解することができていないと考えられる。そのため、普段の授業から根拠をもとに説明する場面を多く設ける必要があると考える。

6.各学校における今後の取組

【授業づくり】

○ 意欲を喚起する導入と学びの変容を自覚できる視点のある振り返り活動の確実な位置付け【書く活動の充実】

○ 目的や具体的な内容、手立てを明確にして行う思考活動に重点をおくとともに書く活動(「書く活動ポイント9」を活用)を位置付けた授業

【学力の基盤づくり】

○ 基礎的・基本的な知識・技能を習得するための朝のモジュール学習

○ 放課後の習熟度別補充学習(数学、定期考査前後)

○ 学級で目標を立て、目標に向かって全員で取り組む学習コンクールの設定(年3回)

【学習の未定着な生徒への支援】

○ 教師による個別の家庭学習の支援

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、校内研修での授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。

◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方について指導する。

◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組を提示したり各学校の取組のよさを交流する場を設定する。